

小児科

診療科のご紹介

あなたのお子さん、お孫さんに「かかりつけ医」はいますか？

私たち小児科医はひとりでも多くのこどもたちの「かかりつけ医」になりたいと願っています。この「かかりつけ医」とは、ひとりひとりのこどもが健康に過ごせるように、病気になった時にはいつも適切な診療をするだけでなく、こじれないように、あるいは病気にならないように、親御さんたちにアドバイスもできる医師を指します。

当院の診療日は月曜日から金曜日までであり、外来診療だけでなく入院診療も行い、また、午後には専門外来や救急外来を行っています。そのため、一般外来診療は平日の午前だけしか行っていません。病気になったお子さんやその親御さんたちの役には十分に立てられず、「かかりつけ医」にさせていただく機会は少ないかもしれません。

私たちは目の前にいるお子さんには最善の診療を行い、その親御さんには十分な説明を行うように努めています。また、診療所やクリニックなど、それぞれの「かかりつけ医」の先生から紹介していただいたお子さんについては必要な検査や処置を行い、お子さんの病気や状態によっては、入院で治療をします。

一方、腎臓疾患や神経疾患、アレルギー疾患などの慢性疾患のお子さんや予防接種を希望されるお子さんは、それぞれの専門外来を開いて、院内感染が生じない環境で、十分な時間をとって診療しています。

診療科で対象とする症状

お子さんが熱を出せば、多くの親御さんは小児科に連れて行くでしょう。その時に「耳が痛い」とお子さんが言えば、行き先は耳鼻科に変わるでしょう。同じように、お子さんが吐き続けていれば、多くの親御さんは小児科に連れて行くでしょう。しかし、その直前に頭を打ってあれば、外科や脳神経外科のある病院を探すでしょう。

逆に、皮膚に発疹(ブツブツ)が出た時には多くの親御さんは皮膚科に連れて行くでしょう。しかし、その時に熱もあれば、小児科に受診される方が多いと思います。

小児科は、原則として0歳から15歳まで(誕生から中学校卒業まで)のこどもたちを診させていただいていますが、その診療内容から言うと「小児内科」がより適切な名称だと思います。

多くの親御さんが理解しておられるように、耳や鼻や眼、あるいは皮膚などの器官や部位に限局した症状ならば、それぞれ耳鼻科、眼科、皮膚科などに受診されるのがよいでしょう。また、明らかなきが(外傷や骨折)だけでなく、体外から大きな力が加わった(打撲)後に症状が現れた時には外科、整形外科、脳神経外科などに受診されるのがよいでしょう。

そして、これら以外の症状の時には、小児科がよいと思います。特に、発熱はさまざまな原因で生じますし、多くが他人にうつす可能性のある感染症ですので、まず小児科で診させていただきます。

また、どの診療科に受診すればよいのか、迷って判らない場合も、小児科で診させていただくのがよいと思います。もし、小児科で対応できなければ、より適切な診療科に紹介致します。

診療科の対象疾患

平日(月曜日から金曜日)午前一般外来では、初診(ある病気で初めて受診)および急性疾患で再診(ある病気で引き続いて受診)のお子さんを診させていただいています。原則として、受け付け順に診療していますが、退院後の診察の方や検査結果の説明の方が予約で入っていることがあり、多少前後する場合があります。また、緊急に診察や処置をしなければならない子が来た時は、順番を飛ばすことがあります。ご了承ください。

平日午後の専門外来(予約制)

慢性疾患のお子さんの診療、予防接種のワクチン接種

月・火曜日午後

内分泌など(予約制)

月・火曜日午前

消化器・内分泌など(予約制)

水・金曜日

アレルギー外来(予約制)

木曜日は予防接種外来として、宝塚市が行っている定期接種のほかに、おたふくかぜや水痘などの任意のワクチン接種をそれぞれの担当医が行っています。(ただし、現在のところ未熟児で生まれたお子さん、アレルギー

症状の強いお子さんなどの、いわゆるハイリスク対象のみに実施しています。(成人の方には行っていません。)(予約制)

火曜日

腎臓外来など(予約制)

第2、4金曜日

神経外来など(予約制)

小児科の状況

当院小児科は病診連携のもと市内で小児患者を診療されている病院医院と一体になって日常診療を進めています。市内外の病院、医院等から多くの加療の必要な小児患者様、精密検査が必要な小児患者様を紹介いただいています。平日は19時まで、土曜日は13時まで紹介患者さんや救急車からの連絡にできるだけ対応しています。毎週、水曜日、金曜日、第一第三日曜日は阪神北圏域の2次当番病院として当直業務をこなしています。

外来業務

午前外来は9時から11時受付、午後外来(予約のみ)は14時から16時受付ですが、それ以外にも必要に応じ対応します。

1. 現在では低身長、甲状腺疾患、副腎疾患などを扱う内分泌外来
京都大学内分泌グループ、大阪母子保健センター、大阪市医療センターなどと連携し相談しながら診療を進めています。最近特に低身長で相談にこられるケースが多くなっています。新生児マススクリーニングにて甲状腺機能低下症(クレチン病)が見つかったお子さんも数多く診療しています。思春期の発育などに関しては中長医師がコンサルタントとしての役割を果たしています。
2. 血尿、蛋白尿、夜尿症などを扱う腎外来
神戸大学小児科などと連携して診断、治療をすすめています。春は、学校検尿で陽性の小中学生など毎年紹介いただいています。小学校高学年の夜尿症のお子さんに対しては御両親とも相談しながら内科的な治療も含めた適切な対処法を選択するようにしています。ネフローゼ症候群で比較的長く入院が必要な小中学生に対しては院内学級の先生にも御尽力いただき体調の許す範囲で学習時間をとるように設定しています。

3. 食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などを対象としたアレルギー外来

近年食物アレルギーで受診されるお子さんが多くなっています。食物アレルギー負荷テストなどにより適切で現実的な食生活および治療の選択を提案しています。喘息に関しては、発作時になるべく対応するようにしています。特に呼吸困難を訴えるお子さんなどは紹介いただき治療しています。アトピー性皮膚炎が著しいお子さんに対しては皮膚科と連携しながら治療しています。

4. 痙攣、運動障害、意識障害などを扱う神経外来

痙攣により救急車で当院受診するお子さんの数は非常に多くなっています。多くは乳幼児中心の数分以内の熱性痙攣や胃腸炎関連痙攣ですが、時に無熱性痙攣や痙攣重積、中学生の学校での痙攣など多彩です。必要に応じ脳波、CT、MRIなどを施行し神経外来で方針を決めています。運動障害、意識障害などに対しても必要な検査などを含めて神経外来でフォローしています。最近は中学生、高校生の患者さんもおられ今後の方針などしっかり立てるようにしています。

5. 消化器外来

腹痛や遷延する下痢、肝機能障害など大阪大学小児栄養消化器グループ、大阪母子センターに協力いただきながら進めています。中長医師は母子センター非常勤も兼ねておりますので気軽に相談下さい。長坂医師は北海道大学、千葉県こども病院在籍中より専門としていた先天性代謝異常症、肝機能障害、小児脂肪肝、高コレステロール血症などの脂質代謝異常症の患者さんの紹介やコンサルトに対応していきます。

6. 予防接種外来

現在のところ未熟児で生まれたお子さん、アレルギー症状の強いお子さんなどの、いわゆるハイリスク対象に行っています。